

指導マニュアル 3:『正義』の多義性と共生

～「善玉・悪玉論」を卒業し、他者の「常識」を分析する～

1. 指導の核心(コンセプト)

島根県立大が最も重視する「国際社会にはいくつもの正義がある」という事実を徹底的に叩き込みます。自分の正義を押し付けるのではなく、相手の正義をその国の歴史的背景(価値の体系)から理解する姿勢を養います。

2. 重点指導ポイント

A. 「常識」の特殊性

- 解説の急所: 「常識」とは世界共通のルールではなく、その地域の歴史が作った「ローカルなルール」であることを伝えます。言葉や習慣が違うように、正義も違うことを認めさせます。

B. 平和＝「緊張の管理」

- 解説の急所: 平和とは「仲良くなること」ではなく、「相容れない正義を持った者同士が、殺し合わずに済むルールを維持し続けること」であると定義し直させます。

3. 生徒を伸ばす問いかけ

- 「相手が自分を『悪』だと思っている時、君はどうやって平和を築く？」
- 「君が正しいと信じていることは、100年前の日本でも、地球の裏側でも正しいと言い切れる？」

4. 添削の際の NG ワード・NG 論理

- ✕「お互いに譲り合えば分かり合える」→「価値の体系」の強固さを甘く見ている。
- ✕「悪い指導者を倒せば自由が訪れる」→ 知的な怠惰(善玉・悪玉論)。
- ○「特定の正義の並立を前提とした、動的な緊張管理」という表現を推奨。